

# 8.14日本軍「慰安婦」メモリアルデーin神戸 映画とトークの集い

【映画】

ダーニャン

## 大娘たちの戦争は終わらない

～中国山西省・黄土の村の性暴力～

「この子が大きくなったら、私の身に起こった不幸のすべてをこの子に伝えてください。できるなら私の濡れ衣を晴らし、仇を討つよう言ってください」母は父にそう言い残して死にました。

(故・南二僕さんの養女 楊秀蓮さん)

死ぬことなんて考えなくていいよ。まだ大事なことがあるからね。この古い体で闘おうよ。(万愛花さん)

## 【トークゲスト】宮内陽子さん

日中戦争への旅を重ね、加害と被害について考えたこと

神戸・南京をむすぶ会代表

1997年以降コロナ禍までは、毎年8月に南京市内外の南京事件の現場と中国各地に残る日本軍加害の現場、生存者、関係者を訪ねるフィールドワークを行う。著書に『日中戦争への旅 加害の歴史・被害の歴史』（合同出版）

日時：2024年8月4日【日】14時 開場13時半

場所：神戸市立婦人会館 5階さくら (裏面地図参照)

資料代：800円 学生・障がい者無料

主催：「慰安婦」問題を考える会・神戸

共催：神戸・南京をむすぶ会

連絡先 tel; 080-3100-2100 e-mail; kobe\_kangaerukai@yahoo.co.jp



## 8.14日本軍「慰安婦」メモリアルデーin神戸

### 映画『大娘たちの戦争は終わらない』と宮内陽子さんのトークの集い

#### 8.14日本軍「慰安婦」メモリアルデー

1991年8月14日、「17歳の私を返してほしい」と、日本軍「慰安婦」被害者の金学順さんが名乗り出られました。その後、日本軍が占領支配した国や植民地支配した国から、たくさんの女性たちが名乗り出られ、日本軍の犯罪を告発し責任を追及しました。彼女たちの勇気を讃え記憶にとどめるために8月14日を日本軍「慰安婦」メモリアルデーとして、この日を前後に世界中で彼女たちを記憶にとどめる活動が取り組まれています。

ダーニャン

#### 映画『大娘たちの戦争は終わらない』 ～中国山西省・黄土の村の性暴力～

この映画は、「中国における日本軍の性暴力の実態を明らかにし、賠償請求裁判を支援する会（略称 山西省・明らかにする会）」の企画で、ビデオ塾の池田恵理子さんの手によって2004年に作られました。

日中戦争で激戦地となった中国山西省の村々に、日本軍の性暴力に苦しめられた女性たちがいます。彼女たちは「ダーニャン」（おばあさん）と呼ばれる年齢になりましたが、心と体に負った傷は深く、南二僕さんのように自殺した女性もいます。

山西省裁判（1998～2005年）は原告敗訴という残念な結果に終わりましたが、被害事実は認定されました。安倍政権以降、日本政府はいまだに「強制連行はなかった」「性奴隷ではない」と主張していますが、山西省の被害者が受けた被害はまさに強制連行であり性奴隷です。

裁判を闘った原告10人は、すでに亡くなられました。近い将来、日本軍「慰安婦」被害者はすべて亡くなってしまおうでしょう。裁判所が認めた被害事実でさえ否定しようとする日本政府を前にして、私たちは今なにができるのでしょうか？

#### トークゲスト 宮内陽子さん

1950年京都市生まれ神戸市育ち。カトリック中高等学校で社会科教員を務めました。退職後はカトリック大阪大司教区社会活動センター（シナピス）に勤務しました。代表を務める神戸・南京をむすぶ会は、1997年以降、毎年8月に南京市内外の南京事件の現場と中国各地に残る日本軍の加害の現場、幸存者、関係者を訪ねるフィールドワークを23回続けています。1999年の第3次訪問では山西省を訪れ、万愛花さんはじめダーニャンたちにもお会いしています。

#### 新しい戦前にいる私たち

岸田政権は安保3文書を閣議決定し、防衛費がGDP2%になるまで増税することを掲げています。琉球弧の島々では辺野古新基地建設が強行される一方で、自衛隊基地が建設・強化され、たくさんのミサイルが配備されています。そして有事に際しての島民避難計画を策定するなど、戦争準備が着々と進んでいます。その仮想敵国は、かつて日本が侵略戦争を行い、ダーニャンたちに性暴力被害を与えた中国です。

今年は中学校教科書採択の年です。河野談話のあとしばらくは中学校教科書にも「慰安婦」の記述はあり

【会場】神戸市立婦人会館 5階さくら



- ・ JR「神戸」駅下車、北へ400m。
- ・ 神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車、北へ120m。
- ・ 市営地下鉄「大倉山」駅下車、南へ徒歩450m。

ましたが、その後歴史修正主義者の攻撃によって記述はなくなりました。そして今年検定を合格した令和書籍歴史教科書では、彼女たちが受けた被害を真正面から否定する記述が載っています。加害の歴史を否定することは、新たな戦争の準備です。

今年の神戸の8.14日本軍「慰安婦」メモリアルデーは、映画を観て凄惨な過去の歴史に向き合い、そして中国を旅し、加害と被害の歴史に向き合ってきた宮内陽子さんのお話を聴きながら、いまなにをすべきかをみなさんと一緒に考えたいと思います。

ぜひともご参加ください。